

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(28年度:計画作成主体:浜松市担い手育成総合支援協議会)(静岡県)

取組の概要

対象品目 : 多肉植物(産地面積:3.6ha)
 主な取組主体: 農業者1名
 成果目標: 販売額の10%以上の増加
 基準(H27年度) 223,290千円
 目標(H30年度) **256,783千円**
 導入施設等: 生産支援事業(ハウス資材購入) **6棟**
整備事業(集出荷貯蔵施設)



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

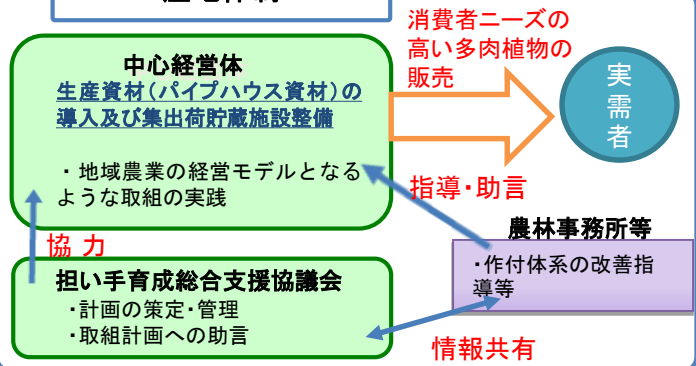
取組主体は現地における中心的な経営体として多肉植物の生産を行っていたところ、取引先からの引き合いも強く増産が求められていたが、十分に応えきれていない状況にあった。多肉植物の生産には、暖房等の設備が必要なく、パイプハウス等の簡易な設備で生産が可能のため、パイプハウス資材の導入による増棟、及び増産に対応するための集出荷貯蔵施設を整備し、生産量及び販売額の増加を図る。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①経営規模の拡大(栽培面積の拡大、生産量増加等)に向けたパイプハウス資材の導入(6棟)
- ②出荷能力の向上(出荷量増加等)に向けた集出荷貯蔵施設の整備

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・耕作放棄地の積極的な解消などを通じて生産面積を拡大するとともに、農地保全にも貢献
- ・農業分野における女性の進出や女性が働きやすい職場作りなどを支援

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①ハウス増設により、生産量が増加
- ②出荷量の増加により、販売額が増加することで生産者所得が向上



【事業実施による間接効果】

- ①事業規模の拡大による新たな雇用の創出

販売額が36,283千円増加
(目標:33,493千円)
(達成率253%)

